

～ツキノワグマの出没にご注意ください！～ 令和7年度堅果類豊凶調査結果をお知らせします

県では、ツキノワグマ（以下「クマ」といいます。）の秋期の主な餌となる堅果（どんぐり）類の豊凶調査を実施しました。

今年度は、堅果類の中でも特に栄養価の高いブナの実が大凶作から凶作となり、全体として餌不足が懸念されます。

このため、クマの人里への出没リスクが高まっていますので、予期せぬ遭遇に十分ご注意ください。

堅果類豊凶調査結果の総評

県北部では、堅果類の樹種を問わず、全体的に着果状況が良くありません。ナラ類については地域によって差があり、県南部では昨年よりも着果状況が良好です。一方、ブナに着果は非常に悪く、「大凶作」から「凶作」の状態です。詳しい情報については、別紙をご確認ください。

令和7年 秋冬

クマの堅果類への依存度が高い県北部（北アルプス、長野、北信）では、昨年と比べ樹種を問わず着果状況が悪く、クマがエサを求めて里地へ出没する可能性があります。県中南部では、堅果類への依存度はそれほど高くありませんが、一定数が既に出没しているため、引き続き注意が必要です。

令和8年 春夏

出産個体は昨年に比べ落ち着くと予想されますが、温暖化により冬眠期間が短縮するなど気候変動の影響が見込まれ、時季外れに普段出没しない集落近くに出没するなどの可能性があります。

ツキノワグマの目撃件数（令和7年4月～8月）

里地での目撃件数 693 件（前年同期 1,095 件、△132 件）

県民の皆様へのお願い

- クマは広範囲を移動するため、県内の森林のどこにでも出没し、人と遭遇する可能性があります。
- 一番重要なことは「クマに出会わない」ことです。森林やその周辺では、複数人での行動や、クマ避け鈴、ラジオ等で音を鳴らすなど、人の存在を知らせることで、クマとの遭遇リスクを下げることができます。
- 朝夕の薄暗い時間帯や見通しの悪い藪がある場所では、不意の遭遇に注意してください。
- 人里での餌の味を覚えたクマは出没を繰り返します。カキやクリなど収穫しない果実や廃棄する農作物、生ゴミ、油脂類等は適切に処理し、人里にクマを引き寄せないことが大切です。
- クマは背を向けて走って逃げるものを追いかける習性があります。万が一遭遇してしまったときは、クマから目を離さず、ゆっくりとその場を離れてください。

※長野県ウェブサイト「ツキノワグマによる人身被害を防ぐために」をご参照ください。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/yasei/sangyo/ringyo/choju/joho/onegai/jinshin.html>



長野県産木材ロゴマーク&
キャッチフレーズについては
こちらから➡



つなぐ木のいのち

NAGANO WOOD PRODUCT

（問合せ先）

担 当	林務部森林づくり推進課鳥獣対策係 田淵、福澤
電 話	（代表）026-232-0110（内線）3264 （直通）026-235-7273
F A X	026-234-0330
電子メール	choju@pref.nagano.lg.jp

(別紙)

令和7年度堅果類豊凶調査の結果（長野県）

【樹種別】

樹種	豊凶の状況	
ミズナラ、コナラ	並作下； 不作～並作上 (R6：不作～豊作)	・県北部で不作であるが、県中南部で並作下以上となっている。
ブナ	凶作； 大凶作～凶作 (R6：不作～豊作)	・大凶作から凶作で、並作だった昨年より明らかに少ない。
クリ、クヌギ等	並作上； 並作下～豊作 (R6：凶作～大豊作)	・全県的に並作下以上であるが、単木ごとのバラツキがある。

【地方別】

地方（地域）	判定	豊凶の状況
東信 (佐久、上田)	並 作	・ナラ類が一部で不作であるが、一定の結実が見られ、昨年と同程度である。
南信（諏訪、上伊那、南信州）	並 作	・ナラ類が並作下以上で、昨年と比べ良い。
中信（木曽、松本、北アルプス）	並 作	・ナラ類が単木ごとのバラツキがあり、北アルプスと松本地域で不作から並作で昨年に比べ少ない。一方、木曽では並作以上に結実している。
北信 (長野、北信)	不 作	・ナラ類は不作から並作で、特に北信地域で少ない。

※堅果類豊凶調査の実施方法

対象樹種：ミズナラ、コナラ、ブナ、クヌギ、クリ、クルミ

調査方法：①県内各地（令和7年度：160地点、1,370本）で目視により樹冠全体及び枝の着果状況を確認

②着果状況に応じて樹木ごとに着果度ランクを決定

0:着果無し 1:樹冠一部疎に着果 2:樹冠一部密に着果

3:樹冠全体疎に着果又は樹冠半分に密に着果 4:樹冠全体密に着果

③地点樹種ごとに着果度ランクの平均値を出し、豊凶を判定

着果度ランク平均値	豊凶判定	着果度ランク平均値	豊凶判定
0	大凶作	1.5以上～2.0未満	並作
～0.3未満	凶作	2.0以上～2.5未満	並作上
0.3以上～1.0未満	不作	2.5以上～3.5未満	豊作
1.0以上～1.5未満	並作下	3.5～	大豊作

④判定結果を林業総合センター、環境保全研究所の研究員が総合的に評価、クマの出没を予測